TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　359語

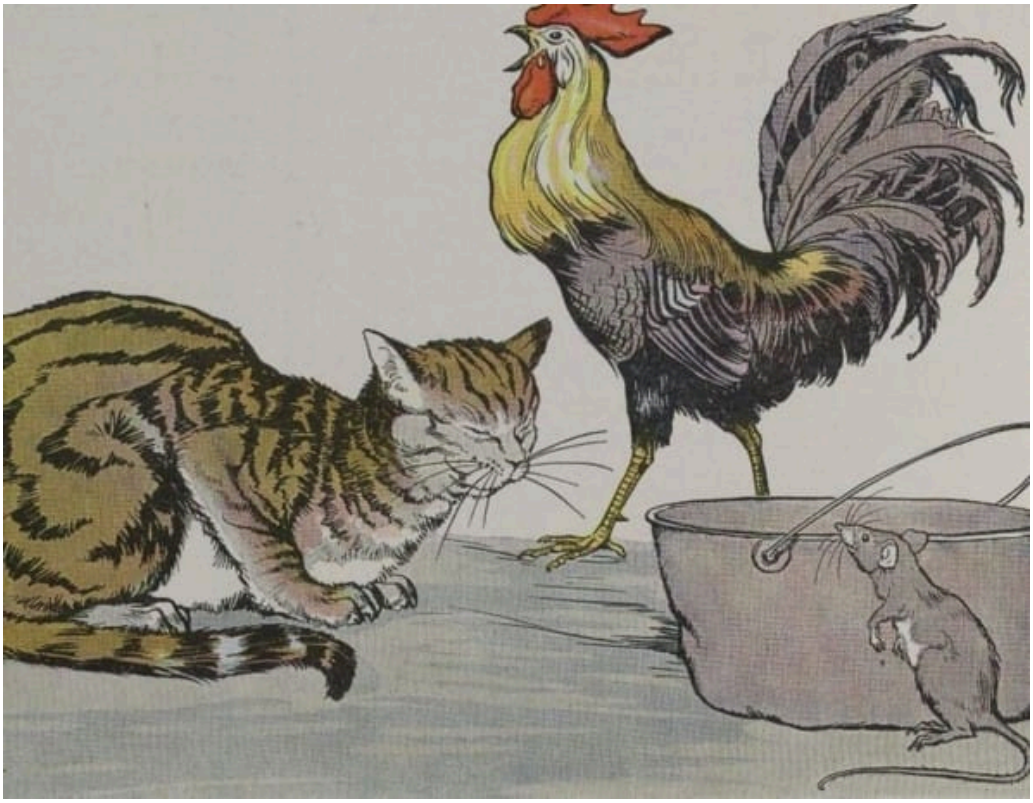
The Cat, the Cock, and the Young Mouse

ネコとおんどりと子ネズミ

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：Susan Morin

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　はじめて外へ出た子ネズミが、こわい「かいぶつ」と、やさしそうな「かわいい生きもの」に出会います。その正体は……。



A very young Mouse, who had never seen anything of the world, almost came to grief the very first time he ventured out. And this is the story he told his mother about his adventures.

"I was strolling along very peaceably when, just as I turned the corner into the next yard, I saw two strange creatures. One of them had a very kind and gracious look, but the other was the most fearful monster you can imagine. You should have seen him.

"On top of his head and in front of his neck hung pieces of raw red meat. He walked about restlessly, tearing up the ground with his toes, and beating his arms savagely against his sides. The moment he caught sight of me he opened his pointed mouth as if to swallow me, and then he let out a piercing roar that frightened me almost to death."

Can you guess who it was that our young Mouse was trying to describe to his mother? It was nobody but the Barnyard Cock and the first one the little Mouse had ever seen.

"If it had not been for that terrible monster," the Mouse went on, "I should have made the acquaintance of the pretty creature, who looked so good and gentle. He had thick, velvety fur, a meek face, and a look that was very modest, though his eyes were bright and shining. As he looked at me he waved his fine long tail and smiled.

"I am sure he was just about to speak to me when the monster I have told you about let out a screaming yell, and I ran for my life."

"My son," said the Mother Mouse, "that gentle creature you saw was none other than the Cat. Under his kindly appearance, he bears a grudge against every one of us. The other was nothing but a bird who wouldn't harm you in the least. As for the Cat, he eats us. So be thankful, my child, that you escaped with your life, and, as long as you live, never judge people by their looks."

> **Do not trust alone to outward appearances.**

和訳 ネコとおんどりと子ネズミ（The Cat, the Cock, and the Young Mouse）

まだ世の中のことを何も知らない、とてもわかい子ネズミが、はじめて外へ出かけたとき、あやうくひどい目にあうところでした。そして、これは子ネズミがお母さんに話した、ぼうけんのお話です。

「ぼくがのんびりおさんぽしていて、となりのにわへの角をまがったとき、2ひきのへんな生きものを見たんだ。1ぴきは、とてもやさしくて上品な顔をしていたけど、もう1ぴきは、思いつくかぎりいちばんおそろしいかいぶつだったよ。お母さんにも見せたかったなあ。

そいつの頭のてっぺんと首の前には、赤いなまの肉みたいなものがぶらさがっていたんだ。そいつはおちつきなく歩きまわって、足のゆびで地面をひっかいて、うでをわきばらにバタバタとはげしくうちつけていたんだ。ぼくを見つけたとたん、そいつはとがったロをあけて、ぼくをのみこもうとするみたいだった。それから、耳がいたくなるようなさけび声を上げたから、ぼくはこわくて死ぬかと思ったよ。」

子ネズミがお母さんに話そうとしていたのがだれだか、わかりますか？それはほかでもない、農家のにわのおんどりで、子ネズミがはじめて見たおんどりだったのです。

「あのおそろしいかいぶつさえいなかったら」と子ネズミは話をつづけました。「とてもよさそうでおとなしそうな、あのかわいい生きものと、友だちになれたのになあ。その子は、ふさふさのビロードみたいな毛で、おとなしい顔をしていて、とてもひかえめなようすだったんだ。目はきらきらかがやいていたけどね。ぼくを見ながら、りっぱな長いしっぽをふって、にっこりわらったんだよ。

きっとぼくに話しかけようとしていたんだ。そうしたら、さっき話したかいぶつがキーッとさけんだから、ぼくはいっしょうけんめいにげてきたんだ。」

「ぼうや」とお母さんネズミは言いました。「おまえが見たそのおとなしい生きものこそ、ほかでもない、ネコなのよ。やさしそうな顔のうらで、ネコはわたしたちネズミのことを、1ぴきのこらずねらっているの。もう1ぴきは、ただの鳥で、おまえにちっともわるいことはしないわ。でも、ネコはね、わたしたちを食べるのよ。だから、ぼうや、ぶじに帰ってこられたことを、ありがたく思いなさい。そして、生きているかぎり、見た目で相手をきめつけてはいけませんよ。」

> **見た目だけで、相手をしんようしてはいけません。**

たんご と クイズ ネコとおんどりと子ネズミ

Mouse ネズミ	mother お母さん	monster かいぶつ
head 頭	Cock おんどり	tail しっぽ
Cat ネコ	bird 鳥	

Q1 子ネズミが「おそろしいかいぶつ」と言ったのは、ほんとうはだれ？

① ネコ　② おんどり　③ 犬

Q2 やさしそうな「かわいい生きもの」は、ほんとうはだれ？

① ウサギ　② ヒツジ　③ ネコ

Q3 お母さんネズミが教えたことは？

① 見た目で相手をきめつけない　② 外に出てはいけない　③ 鳥とあそびなさい

こたえ

Q1 ② 頭に赤いとさかがあり、つばさをバタバタさせて大声で鳴く「かいぶつ」は、農家のにわのおんどりでした。

Q2 ③ ふさふさの毛で長いしっぽをふっていたのはネコでした。ネコはネズミを食べてしまうのです。

Q3 ① 生きているかぎり、見た目で相手をきめつけてはいけません、とお母さんは子ネズミに教えました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Susan Morin（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。